

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔岩手県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	盛岡市立見前南中学校	12(0)	422
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	盛岡市立永井小学校	12(0)	352
	盛岡市立見前南小学校	12(0)	330
		()	
		()	

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをすることは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	415	51.5	36.6	9.4	2.5	63.6	29.5	5.7	1.2	30.9	51.5	13.4	4.2	30.4	47.3	18.6	3.7
		前年②	415	50.4	41.0	6.2	2.5	59.2	33.4	6.1	1.3	29.1	52.4	16.5	2.0	22.5	57.5	17.5	2.5
		本年①	422	56.9	35.0	5.7	2.5	65.0	30.3	3.7	1.0	36.7	46.8	15.0	1.5	28.8	50.2	18.7	2.2
		本年②	422	62.4	29.9	6.2	1.5	70.4	25.1	3.2	1.2	42.8	40.0	13.4	3.7	31.3	46.8	16.7	5.2
	3	中2①	152	43.6	38.3	14.1	4.0	52.3	35.6	9.4	2.7	21.5	53.7	18.1	6.7	21.5	48.3	23.5	6.7
		中2②	152	45.4	40.4	8.5	5.7	51.1	36.2	9.2	3.5	22.0	56.7	17.0	4.3	17.0	51.8	26.2	5.0
		中3①	152	50.3	38.1	7.5	4.1	55.1	36.7	5.4	2.7	25.2	50.3	21.8	2.7	19.7	49.7	27.9	2.7
		中3②	152	63.2	29.9	5.5	1.4	67.4	28.5	2.8	1.4	50.7	36.1	11.1	2.1	28.5	53.5	13.2	4.9
	2	中1①	137	64.7	27.8	6.8	0.8	72.2	23.3	3.8	0.8	42.9	45.9	9.8	1.5	42.1	46.6	9.0	2.3
		中1②	137	48.5	45.5	6.0	0	61.2	34.3	4.5	0	20.9	59.7	18.7	0.7	22.4	61.9	13.4	2.2
		中2①	138	53.0	40.9	3.0	3.0	65.2	31.8	3.0	0	34.8	54.5	9.8	0.8	25.0	56.8	15.2	3.0
		中2②	138	56.8	34.8	6.8	1.5	65.9	29.5	3.8	0.8	31.1	46.2	18.2	4.5	26.5	48.5	20.5	4.5
	1	小6①	102	61.4	35.6	2.0	1.0	77.2	20.8	2.0	0	43.6	45.5	8.9	2.0	51.5	42.6	5.9	0
		小6②	102	59.8	32.4	3.9	3.9	72.5	20.6	4.9	2.0	38.2	47.1	10.8	3.9	45.1	47.1	6.9	1.0
		中1①	132	68.5	25.2	6.3	0	76.4	21.3	2.4	0	52.0	34.6	12.6	0.8	43.3	44.1	11.8	0.8
		中1②	132	67.5	24.6	6.3	1.6	78.6	16.7	3.2	1.6	46.0	38.1	11.1	4.8	39.7	37.3	16.7	6.3
小学校	高学年計	前年①	227	69.0	26.5	3.1	1.4	81.9	16.8	1.3	0	38.5	51.8	8.8	0.9	51.8	43.4	4.8	0
		前年②	227	60.9	32.4	2.7	4.0	77.8	17.8	3.6	0.9	30.2	56.0	12.0	1.8	44.0	50.7	4.9	0.4
		本年①	245	72.1	25.0	2.5	0.4	81.6	14.8	2.9	0.8	47.1	41.8	10.2	0.8	62.7	32.4	4.1	0.8
		本年②	245	81.0	14.5	4.4	0	87.9	9.7	1.6	0.8	50.4	42.7	6.9	0	66.1	31.0	2.8	0
	6	小5①	125	75.2	19.2	4.0	1.6	85.6	13.6	0.8	0	34.4	56.8	8.8	0	52.0	44.0	4.0	0
		小5②	125	61.8	32.5	1.6	4.1	82.1	15.4	2.4	0	23.6	63.4	13.0	0	43.1	53.7	3.3	0
		小6①	124	77.2	21.1	1.6	0	85.4	12.2	1.6	0.8	46.3	43.1	9.8	0.8	64.2	28.5	6.5	0.8
		小6②	124	89.4	8.1	2.4	0	93.5	5.7	0.8	0	52.0	43.1	4.9	0	67.5	29.3	3.3	0
	5	小5①	121	66.9	28.9	3.3	0.8	77.7	17.4	4.1	0.8	47.9	40.5	10.7	0.8	61.2	36.4	1.7	0.8
		小5②	121	72.8	20.8	6.4	0	82.4	13.6	2.4	1.6	48.8	42.4	8.8	0	64.8	32.8	2.4	0

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	本年①	422	93.8	3.7	1.5	1.0	89.7	6.9	1.7	1.7	94.1	4.4	1.0	0.5	91.1	6.7	1.2	1.0
		本年②	422	94.0	4.5	1.0	0.5	88.3	7.7	2.0	2.0	93.0	5.7	0.7	0.5	89.6	8.2	1.2	1.0
	3	中3①	152	96.6	0	1.4	2.0	91.8	4.1	0.7	3.4	95.9	3.4	0	0.7	93.9	4.8	0.7	0.7
		中3②	152	97.2	2.1	0.7	0	93.8	2.1	2.1	2.1	97.9	1.4	0.7	0	95.8	2.8	1.4	0
	2	中2①	138	93.2	5.3	1.5	0	93.2	5.3	0	1.5	93.9	4.5	1.5	0	90.9	7.6	0.8	0.8
		中2②	138	94.7	3.8	0.8	0.8	87.1	9.8	1.5	1.5	92.4	6.1	0.8	0.8	93.2	6.1	0	0.8
	1	中1①	132	91.3	6.3	1.6	0.8	83.5	11.8	4.7	0	92.1	5.5	1.6	0.8	88.2	7.9	2.4	1.6
		中1②	132	89.7	7.9	1.6	0.8	83.3	11.9	2.4	2.4	88.1	10.3	0.8	0.8	78.6	16.7	2.4	2.4
小学校	高学年計	本年①	245	86.1	11.1	2.9	0	74.6	18.9	3.3	3.3	88.1	10.2	1.6	0	82.8	15.2	1.6	0.4
		本年②	245	90.7	8.5	0.4	0.4	83.9	11.3	3.6	1.2	90.3	8.5	0.8	0.4	86.7	12.1	1.2	0
	6	小6①	124	91.9	8.1	0	0	84.6	12.2	1.6	1.6	92.7	5.7	1.6	0	85.4	11.4	3.3	0
		小6②	124	96.7	2.4	0	0.8	94.3	3.3	2.4	0	95.1	4.1	0.8	0	95.1	4.9	0	0
	5	小5①	121	80.2	14.0	5.8	0	64.5	25.6	5.0	5.0	83.5	14.9	1.7	0	80.2	19.0	0	0.8
		小5②	121	84.7	14.5	0.8	0	73.6	19.2	4.8	2.4	85.6	12.8	0.8	0.8	78.4	19.2	2.4	0

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	家庭、地域の生活環境の変化により、自己有用感や社会関係能力の低下、学業不振等に起因する学校不適応の生徒がみられる。
目標	小中連携を通じた学習指導と人間的な触れ合いのある体験活動の充実を通して、自己有用感と集団への所属感をもった児童生徒を育成する。
取組	①自己有用感や所属感を高めるための学校行事や特別活動の充実 ②児童生徒一人一人が所属感をもって学び合える授業づくり ③小小交流、小中交流などの関わりを意識した体験活動の充実

5 重点推進事項

小・中共通	①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進 ②児童会・生徒会の交流活動の充実(合唱交流・リーダー研修会・地域清掃) ③小学校5・6年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流
中学校	①生徒会活動の充実 ②合唱活動交流の実施 ③部活動部員による小学生の競技指導
小学校	①小小連携による共通の学習規律の確立 ②縦割り班活動(清掃・集会)での交流を通じた感動体験の充実 ③地区民・保護者と連携し地域教材や人材を活用した学習の深化 ④教科部会単位で推進する授業改善

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<p>「ア 学校が楽しい」</p> <p>「イ みんなで何かをす るのが楽しい」</p>	<p>小学校では、約 97%の児童が肯定的な回答をした。「先生や友達に会える」「行事が楽しい」「授業が楽しいし、いろいろ学べる」などの理由が多かった。生活アンケートなどの結果をもとに、児童個々に教育相談を実施したり、授業において十分な教材研究を心がけ、学び合いの学習を仕組んだりすることで、児童が充実した学校生活を送ることができているのではないかと考えられる。</p> <p>中学校では、約 92%が肯定的な回答であった。「友達と会える」「授業の学び合い学習で友人から分からないところを教えてもらいわかるようになった」などの理由が多かった。行事や諸活動において、生徒同士が関わりをもって取り組むような場の設定を工夫し、活動時間を十分に与えることで、生徒自身が、自己有用感や所属感が高まっていることを実感できたのではないかと考える。</p> <p>小学校では、約 98%が肯定的な回答をした。「みんなと協力できて、何かを成し遂げると楽しい」「友情を深められる」などの理由が多かった。行事後、その取組にどのような価値や成果があったのか振り返り、互いを認め合う場を設定したためと考える。</p> <p>中学校では、約 96%が肯定的な回答だった。「自分一人ではできないが、みんなと協力することでできるものがある」「成し遂げた時の達成感がすごい」などの理由が多い。行事などに取り組む際の目標や見通しを立てさせ、時間を十分に確保し、自主的に活動させる中で振り返りができるよう配慮したことが大きく寄与していると考ええる。また、生徒が自分の役割に責任をもってやり遂げられるよう、教師が支援している点も、生徒の大きな達成感につながっていると考ええる。</p>

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<p>「エ 授業がよくわかる」</p> <p>「ウ 授業に主体的に取り 組んでいる」</p>	<p>中学校では、特に1・2年生の肯定的な回答が下降傾向であった。1年生は、学習内容の難易度が上がったことにより、「よくわかる」までに至らないという生徒の声が多かった。また、中学校生活への慣れから、授業での集中度が学級単位で悪くなっているとの自己評価もあった。学年生徒会が授業態度の向上運動に取り組んでいるが、まだ十分浸透していないのではないかと考える。</p> <p>2年生は、部活動や諸活動が生活の中心となり、家庭学習に費やす時間が減少傾向にあることが分かった。</p> <p>また、否定的な回答の生徒が 20%程度いる。「発言など積極性がない」「授業が難しくなり理解が困難である」「自分で努力をしていない」など、テストなどの結果から内面的な意欲が足りていないと答える生徒が多い。生徒の活動を増やし、意欲を喚起するようグループ学習を設定しているが、まだ、その成果は生徒の実感として捉えられていないようである。教師が一方的に教授する授業ではなく、生徒にわかりたいと思わせるような授業を展開するよう、更なる工夫が必要である。</p> <p>小学校では、「主体的である」と答える児童が 47%に留まった。学び合いのある授業をし、学習活動が活発になっているように見えたが、児童の理由をみると「グループでは意見を出しやすいが、</p>

	<p>手をあげて発表することに自信がもてない」「時間内での理解が難しい」などが主としてあげられている。また、グループ活動などでの学び合いには効果を感じている反面、間違えた時に友達がどんな反応を示すか不安を感じている児童が多いようである。そのため、学習環境を整え、授業という場を通しての適切な生徒指導を行い、学級の集団づくりを更に充実させていく必要がある。</p>
--	---

7 2年間の調査研究の成果と課題

①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進

- 小中合同の教科部会を月1回程度開催し、児童生徒が自己有用感をもって学び合える授業のあり方について協議を重ねた。また、小中合同の教科部会による授業研究を推進し、各教科で期日を設定し、小・中学校互いの授業を参観し、授業改善を図ることができた。指導案検討会の実施も推し進めることができた。
- 授業中のグループ学習については、調べ学習や考えをまとめる時間に、児童生徒に互いの意見を交換させる工夫を行っている。そのため、児童生徒から「協力しながら学習することでわかるようになった」「みんなでやると他の人の考えを聞くことができて役立つ」などの感想が多く出てきてはいるが、グループで思考したものを堂々と発表できる場の設定などの工夫が課題である。

②児童会・生徒会の交流活動の充実(合唱交流・リーダー研修会・地域清掃)

- 年間計画を立て、どの時期にそれぞれのねらいをもって交流活動を行うのかを小中の連絡を密にしながら実施した。25年度はさらに児童会・生徒会のリーダーが交流活動について話し合い、自分たちの力で運営していくことを考えさせる場として、小中合同の「リーダー研修会」を行った。現在盛んに行われている小中交流の歴史を振り返る機会を設け、交流の意義を再確認し、自分たちで活動をしっかりやっという意識付けとなるようにした。その後、小中交流活動についても小学校リーダー間で話し合い、各校リーダーが意識を高め、充実した研修会となった。
- 中学校においては、全生徒が小中交流活動に何らかの関わりをもって行っているが、小学校はまだ全校の取組となっていない。清掃活動は小学校リーダーのみの参加であり、合唱交流は全校参加であるが、主体性という面では受け身の状態となっている。小学校において、小中交流活動が一部の児童だけのものにならないよう、様々なアイデアを出し合い、行事が全児童生徒のものとなるような手立ての工夫が必要である。

③小学校5・6年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流

- 陸上競技、バスケットボール、サッカーと小学生の大会前に、中学生が技術指導したり、一緒になってプレーをしたりした。本年度は小学生同士の交流であったため、互いにより身近に感じながらの交流にすることができ、活動にも主体的に取り組むことができた。また、その活動が発展し、市内小学校水泳記録会に向け、小中合同の練習会を実施した。お互いのフォームを確認したり、競争したりすることにより、大会に向けて共に頑張ろうとする意欲が高まった。
- 小学校では選抜された選手のみでの参加となるため、交流活動を全体で行っているという意識がなかなか生まれてこない。現在は、中学校に来てもらい実施しているが、中学生が小学校に出向き、全体に指導するなど取り組みに対しての工夫が必要である。

8 取組内容

(1) 月別実施内容

※「実施状況」の欄は、次の記号で取組内容ごとに示す。

○・・・予定どおり実施

△・・・時期を変更して実施又は実施予定

◇・・・計画書にはないが新たに実施

×・・・実施しなかった

<平成24年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	○中学校と連携した「まなびフェスト」の設定（全小）	○	○小学校と連携した「まなびフェスト」の設定 ○第1回連絡協議会	○
5月	○第1回意識調査（全小）	○	○生徒理解全体研究会 ○第一回意識調査 ○体育祭への招待（小中）	○ ○ ○
6月	○小学校間スポーツ交流〔陸上〕（交流） ○縦割り班清掃（全小） ○農業体験活動（見前南小） ○遊び集会（永井小）	○ ○ ○ ○	○悩みアンケート（いじめアンケート） ○全校生徒教育相談 ○小中スポーツ交流〔陸上〕（小中合同） ○小中挨拶交流（小中合同） ○小中合同地域奉仕作業（小中合同） ○小中授業交流研究会（小中合同）	△ ○ ○ ○ ○ ○
7月	○教育相談（全小） ○小学校間スポーツ交流〔水泳〕	○	○小中挨拶交流（小中合同）	○
8月	○小中合同研修会（小中合同）	○	○小中合同研修会（小中合同）	○
9月	○小学校間スポーツ交流〔球技〕（交流）	○	○小中授業交流研究会（小中合同） ○小中スポーツ交流〔球技〕（小中合同） ○小中挨拶交流（小中合同）	○ ○ ○
10月			○小中挨拶交流（小中合同） ○小中合同地域奉仕作業（小中合同） ○小中授業交流研究会（小中合同） ○音楽祭への招待（小中）	○ ○ ○ ○
11月	○遊び集会（永井小）	○	○ブロック別協議会 ○全校生徒教育相談 ○小中合唱交流（小中合同）	○ ○ ○
12月	○第2回意識調査（全小） ○教育相談	○ ○	○第2回意識調査 ○小中挨拶交流（小中合同）	○ ○
1月			○小中挨拶交流（小中合同） ○新一年生体験入学	○ ○
2月	○遊び集会（永井小）	○	○小中挨拶交流（小中合同） ○小中授業交流研究会（小中合同） ○24年度取組の総括（小中合同） ○第2回連絡協議会	× ○ ○ ○
3月			○小中挨拶交流（小中合同） ○新一年生ための連絡会議	× ○

<平成25年度>

□=各校ごとの取組 △=小小児童間交流 ▲=小小教師間交流 ☆=児童・生徒間交流 ★=小中教師間交流

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
通年	□学団ごとの朝会集会(永井小) □月毎音楽集会(見前南小)	○ ○	☆小中挨拶交流(小中合同) ☆小中合同地域奉仕作業 □教育相談委員会	○ ○ ○
4月	□中学校と連携した「まなびフェスタ」の設定(全小)	○	□小学校と連携した「まなびフェスタ」の設定 ★第1回連絡協議会【東京】(小・中) □小中合同教科部会(小・中)	○ ○ ○
5月	□運動会(全小) ▲小小授業交流研究会(全小)	○ ○	☆第1回意識調査(小・中) □生徒理解全体研究会(全校) □体育祭への招待(小・中) □体育祭(全校) ★小中授業交流研究会(小・中)	○ ○ ○ ○ ○
6月	△小小スポーツ交流[陸上](全小) □縦割り班清掃(全小) □農業体験活動(見前南小) □遊び集会(永井小) □縦割り班遊び(見前南小)	○ ○ ○ ○ ○	☆小中スポーツ交流[陸上](小・中) □悩みアンケート(全学年) □全校生徒教育相談(全学年) ★小中授業交流研究会(小中合同)	○ ○ ○ ○
7月	□教育相談(全小) □学団スポーツ交流会(永井小) ☆小小スポーツ交流[水泳]	△ ○ ○	★小中授業交流研究会(小・中) ★第1回魅力ある学校づくり事業調査研究委員会(小・中)	△ ◇
8月	▲小小授業交流研究会	○	★小中合同研修会(小・中) ☆児童会・生徒会実践交流会 ☆小中合同地域奉仕作業(小中合同)	○ ○ △
9月	△小小スポーツ交流[球技](小中交流をうけて) ▲小小授業交流研究会 □縦割り班遊び(見前南小)	○ ○ ○	☆小中スポーツ交流[球技](小中合同) ★小中合同教科部会(小中合同)	○ ○
10月	□学習発表会(永井小)	○	□小中合同教科部会(小中合同) ☆音楽祭への招待(小中) ★学校公開研究会 ★研究紀要・リーフレットの作成	○ ○ ○ ○
11月	□2学年交流(見前南小) □作品展(見前南小)	○ ○	□全校生徒教育相談 ☆小中合唱交流(小中合同) ★小中授業交流研究会(小中合同)	○ ○ ○
12月	□第2回意識調査(全小) □遊び集会(永井小) □2学年交流(見前南小) 教育相談	○ ○ ○ ○	□第2回意識調査	○
1月			☆新1年生体験入学(全小6・中)	○
2月	□6年生の企画による発信活動(永井小) □縦割り班遊び(見前南小) ★第2回連絡協議会	○ ○ ○	★小中合同教科部会(小中合同) ★25年度取組の総括(小中合同) ★第2回連絡協議会	○ ○ ○

(2) 重点推進事項の実施状況

[小・中共通]

①「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進

本年度、小中合同の教科部会を月1回程度開催し、児童生徒が自己有用感をもって学び合える授業のあり方について協議を重ねている。また、小中合同の教科部会



による授業研究を推進し、各教科で期日を設定し、小・中学校互いの授業を参観し、授業改善を図った。

授業中のグループ学習については、調べ学習や考えをまとめる時間に、児童生徒に互いの意見を交換させる工夫を行った。そのため、児童生徒から「協力しながら学習することでわかるようになった」「みんなでやると他の人の考えを聞くことができ役立つ」などの感想が多く出てきた。また、24年度の意識調査から、グループで思考したものを堂々と発表できる場の設定などの工夫が課題であることがわかった。そのため、25年度は、自分の考えを周りのみんなと認め合える集団づくり、雰囲気づくりすることに重点を絞った。「自分の考えやグループの考えを発表する場面設定の工夫」「挙手・発言がしやすいような学級づくり・集団づくり」、「授業に児童生徒が積極的に取り組める手立ての検討」等をねらいとし、小中合同教科部会において、研究授業の指導案検討会を行った。

研究の積み重ねを行いながら、10月には一つの集大成として学校公開授業研究会を開催し、本事業の趣旨や取組の成果等を広く周知することができた。

②児童会・生徒会の交流活動の充実

長年に渡り、小中での挨拶交流、合唱交流、地域活動の交流、スポーツ交流などを行ってきたが、24年度の意識調査の結果から、小学生がより主体的に小中交流活動に関わりを持つことが課題となった。そこで25年度はさらに児童会・生徒会のリーダーが交流活動について話し合い、自分たちの力で運営していくことを考えさせる場を設定した。具体としては、夏休み中に実施した、小中合同の「リーダー研修会」である。小中のリーダー約30名が、夏休み以降の交流活動のあり方について話し合った。その際、現在盛んに行われている小中交流の歴史を振り返る機会を設け、交流の意義を再確認し、自分たちで活動をしっかりやっていこうとする意識付けとなるようにした。続いて、小小交流活動についても小学校間で話し合い、リーダーが意識を高め、充実した研修会となった。



③小学校5・6年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流

夏休みに行われる市内小学校水泳記録会に向け、7月に見前南小学校・永井小学校合同の練習会を実施した。お互いのフォームを確認し合ったり、競争したりすることにより、大会に向けて一緒に頑張ろうとする意欲が高まった。

また、今まで行ってきた小中のスポーツ交流と違い、小学生同士の交流であったため、互いにより身近に感じながらの交流にすることができ活動にも主体的に取り組ませることができた。



〔中学校〕

①生徒会活動の充実

市内中学校陸上大会に向けた応援練習が例年以上に充実した活動となった。応援リーダーが、夏休みから工夫を凝らした応援を作り上げようとアイデアを出し合い、その具現化のために全校生徒一人一人の動きについて綿密に話し合うなどして、全校練習に臨んだ。リーダーの意気込みに全校生徒も応え、練習段階から声量、動きともに素晴らしいものとなった。



大会後に生徒が書いた感想文には、集団の一員として活動することの楽しさや、みんなで物事をやり遂げた楽しさについて、多く記されていた。

②合唱活動交流の実施

小中合唱交流の活動として、5月より全校合唱活動をスタートさせた。全校生徒を4つのパートに分け、3年生合唱リーダーが各パートの練習を担当し、曲を仕上げていった。6月に2週間程度、7月に1週間程度毎日取り組んだ。

本校ではリーダー育成の一つとして、合唱活動に取り組みさせており、2年生の3学期より全体リーダー、パートリーダーを1年間掛けて育成した。

音楽祭では、各学級での取り組み、全校での取り組みを行う中で、リーダーが成長し、それに伴って全校生徒、学級が一つにまとまっていく姿が随所に見られた。当日は、地域の方々や小学生を招待し、自分たちの活動の成果を発表できた。

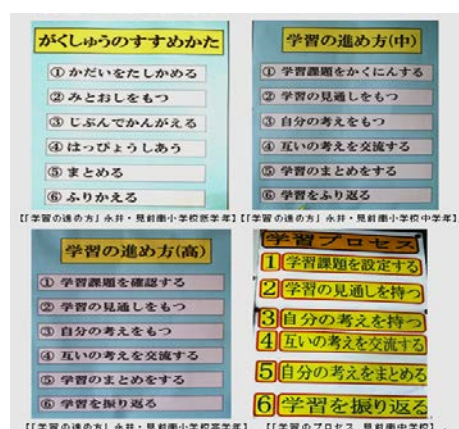
〔小学校〕

① 小小連携による共通の学習規律確立(全校)

「学習の進め方」について共通の掲示ができたが、今後は、合同の教科部会において研究を深め、発表の仕方やノート指導について触れていくことを確認した。

発表の仕方については、小小で共通理解を図りながら、意見の仕方など同じような形で指導することができた。

また、小中でも取り組んだのは、授業開始時、終了時の「あいさつ」の仕方を共通のものにしていくことであった。



②縦割り班活動(清掃・集会)での交流を通じた感動体験の充実

6年生20名程度の縦割り班の班長が中心になって、遊びを企画し運営した。6年生は、遊び集会の一週間ほど前から休み時間を使って準備した。遊び集会当日は、1年生から5年生までの児童が、20個ほどの遊びの中から自由に選んで遊んだ。遊びはすべてランキング形式で行われ、集会後はそれぞれの種目ごとに表彰をした。1回目と2回目は同じ種目を行い、なるべく多くの遊びに触れることができるように工夫していた。(永井小)



③地区民・保護者と連携し地域教材や人材を活用した学習の深化

6年生の修学旅行において、「岩手発信活動」を中心に据えて取り組ませた。自分たちの住む岩手県のことをもっと広く知ってもらうため、修学旅行で訪れた仙台市で岩手の名所や特産品を発表し、盛岡の郷土芸能である「さんさ踊り」を披露するとともに、震災からの復興の様子も紹介した。児童一人一人が踊りや発表・チラシ配布などの役割を分担して臨み、全員の力で作り上げる修学旅行を体験することができた。また、踊りの指導や調べ学習の資料提供において、保護者に協力を依頼し、保護者や地域と一体となった活動を展開することができた。今後、この活動を伝統として継続していくために、2月に、6年生から5年生への引き継ぎ式を行った。(永井小)



地域住民の力を借りて取り組んでいる農業体験学習

では、田植え体験だけでなく、新たに芋植え体験も行うことができた。地域の方から指導を受けながら、発達段階に応じた内容で体験学習を進めることができた。地域の歴史や文化などについて触れながら学習を進めたため、地域への理解も深めることができた。(見前南小)

9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活 動 内 容
4 (1)	事業全般	年間計画の作成、具体的取り組みの計画・立案
4 (2)	小・中連携	「自己有用感を持って学び合える授業づくり」研究計画作成 「小中交流活動」の日程調整・実施要項作成
	小・小連携	「感動体験」の具体的取組内容の決定 「学習規律づくり」日程調整等
4 (3)	データ収集、分析等	意識調査アンケートの実施と集計 チェックシートのまとめ
4 (4)	取組の評価	チェックシートのまとめ、本調査研究の反省
4 (5)	広報等	リーフレットづくり、研究紀要の作成

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の推進については、小中合同教科部会での指導案検討会ができ、それにより、さらに小中それぞれの良さを交流しあい、授業内容が充実した。
- ・「児童会・生徒会の交流活動の充実」では、小中リーダー研修会を実施したことにより、児童生徒の目線から様々な小中交流活動について見直しを図り、実践することができた。2学期の活動についても話し合うことができ、その後の小中交流活動の意欲喚起にもつながった。
- ・「小学校5・6年児童と中学生の部活動種目を活かしたスポーツ交流」では、小学校5・6年の陸上大会選手を中学校にむかえ、種目ごとの練習会を実施した。本年度は小学生リーダーに進行などを務めさせた。小学生が主体的にかかわることにより活動がさらに充実した。

<課題>

- ・「小小連携による共通の学習規律の確立」については、掲示物を作成し掲示することはできたが、まだ規律の徹底には至っていない。今後も連携を図り、共通理解の下で指導を進めていく必要がある。
- ・「自己有用感をもって学び合える授業づくりの推進」については、学び合いの場面設定など成果も多かったが、話し合ったことや自分の考えを全体の前で、児童生徒が自信をもって発表するという場面設定に、課題が残った。
- ・学習の理解度については、アンケート等で望ましい数値が得られなかった。

10 教育委員会の取組

(1) 盛岡市教育委員会

[重点推進事項]

- ・校内研究、合同研究充実のための支援（授業改善に係る小小・小中連携の推進）
- ・当該校区の実践内容や成果等の紹介による小中連携の啓発

[課題と成果]

- 小中合同研究会・教科部会、及び学校公開研究会での指導助言)

- 市の教育研究所研究発表大会（全体会）における、当該校区の実践の紹介
- 本事業の研究成果をまとめたリーフレットの作成
- 合同研究の深化（今後も継続していくための体制づくりを支援）

（２）岩手県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・本事業の進捗状況の詳細な把握（拠点校担当者及び市教委担当者との連携強化）
- ・学校訪問を通じた「自己有用感をもって学び合える授業づくり」の支援
- ・本事業全般及び学校公開研究会の実施にかかわる指導・助言
- ・当該校区の取組内容や研究成果等の普及啓発のための企画・調整

〔課題と成果〕

- 定期的に学校訪問を行うとともに、市教委担当者と細やかに連絡を取り合ったことで、事業の進捗状況を把握しながら、適切に助言することができた。
- 小中合同研究会において、県担当指導主事から生徒指導の機能を生かした授業づくりについて指導することができた。
- 本調査研究事業の成果を県内に普及するため、県レベルの発表会の企画・運営を行い、当日は100名を超える参加者に対して、研究成果を示すことができた。
- 委嘱終了後の取組の継続について、支援体制等の検討が必要である。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

（１）構成

所 属	人数	備 考（主な職名等）
岩手県教育委員会	2	主任指導主事、指導主事
盛岡市教育委員会	2	学校教育課長補佐、指導主事
盛岡市立見前南中学校	10	校長、副校長、教務主任、生徒指導主事、研究主任、本事業担当者、学年主任、教育相談担当
盛岡市立永井小学校	4	校長、副校長、教務主任、小中連携担当
盛岡市立見前南小学校	4	校長、副校長、教務主任、小中連携担当

（２）事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・委員の選出について特に留意したことは、小中連携の活動に例年中心的存在として携わっている教員を選出することである。そのため、小中交流活動についてスムーズに取り組むことができた。
- ・上記調査研究委員会の他に、3校の校長が打合せを毎週持って共通理解を図り、各校担当者に適切に指導したことで、事業を推進することができた。

<課題>

- ・教育委員会担当者が、拠点校及び連携校の取組について、学校訪問等で把握しながら、学校のニーズに合わせた支援を細やかに行うことが必要である。

12 作成資料等

- <平成24年度>見前南中学校区「魅力ある学校づくり調査研究事業」の取組紹介
- <平成25年度>見前南中学校区「ともにのびよう みなみの子」（リーフレット）

13 関連URL（岩手県教育委員会学校教育室 生徒指導ホームページ）

<http://www.pref.iwate.jp/gakko/13888/seitoshidou/index.html>

【問い合わせ先】

所属	岩手県教育委員会事務局学校教育室		電話	019-629-6146	
職名	指導主事	氏名	佐々木 淳 一	よみがな	ささきじゅんいち